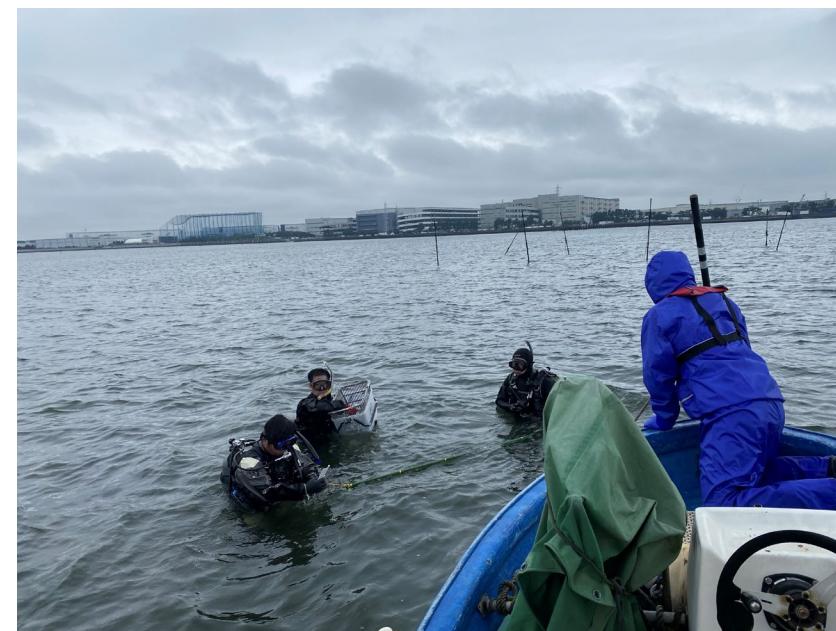


令和6年度アマモ移植実施報告

アマモの植え付け（令和6年11月2日）

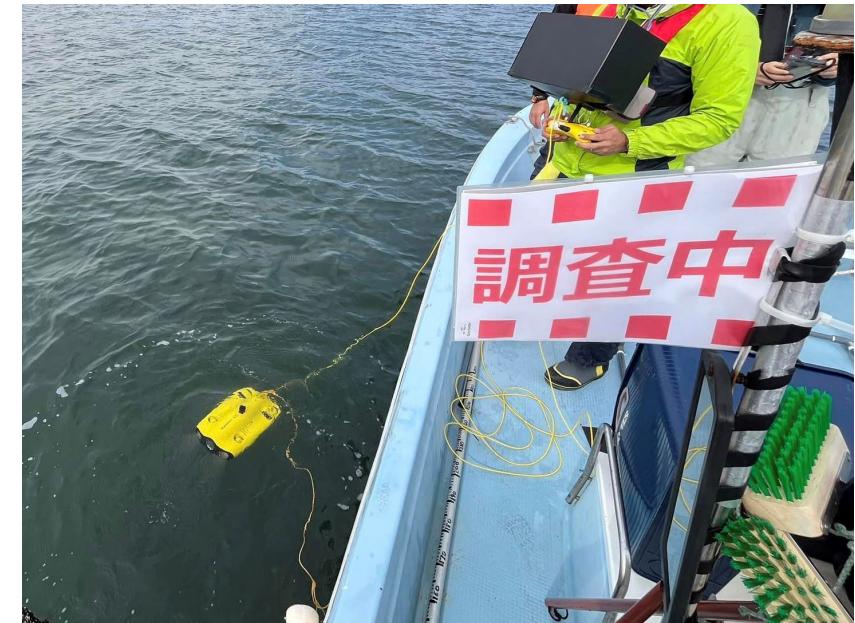
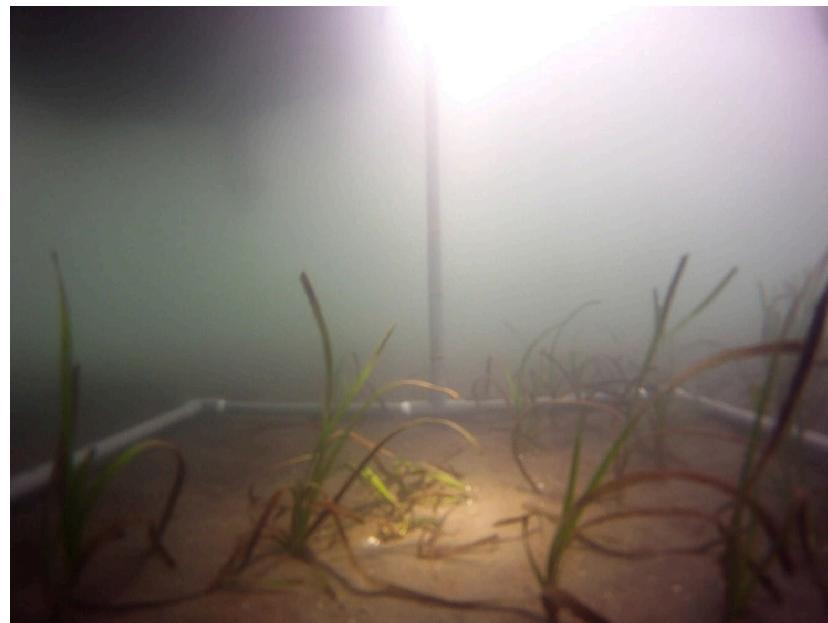
市川市漁業協同組合と特定非営利活動法人三番瀬フォーラムにご協力いただき、富津で採取したアマモ約300株を三番瀬に移植しました。移植後に流されにくくするため、採取したアマモの根に紙粘土を付けたのち、一本ずつダイバーが海底に植えていきました。



モニタリング1回目（令和6年11月16日）

移植して約2週間が経ち、最初のモニタリングを実施しました。

船上から水中ドローンを操作して、海底のアマモを観察しました。移植後に暴風や波浪もなく、株の消失はほとんど見られませんでした。このまま順調に育つことを期待しています。



撮影：三番瀬フォーラム

モニタリング2回目（令和6年12月14日）

移植から約1か月半が経ちました。当日は強風で水中も濁っていて、調査が難航しました。

アマモの株数はほとんど減っていませんでしたが、一部枯れている箇所が確認されました。前回から育っていないように見えますが、アマモは冬の寒い時期に成長が盛んになるので、引き続き見守っていきます。

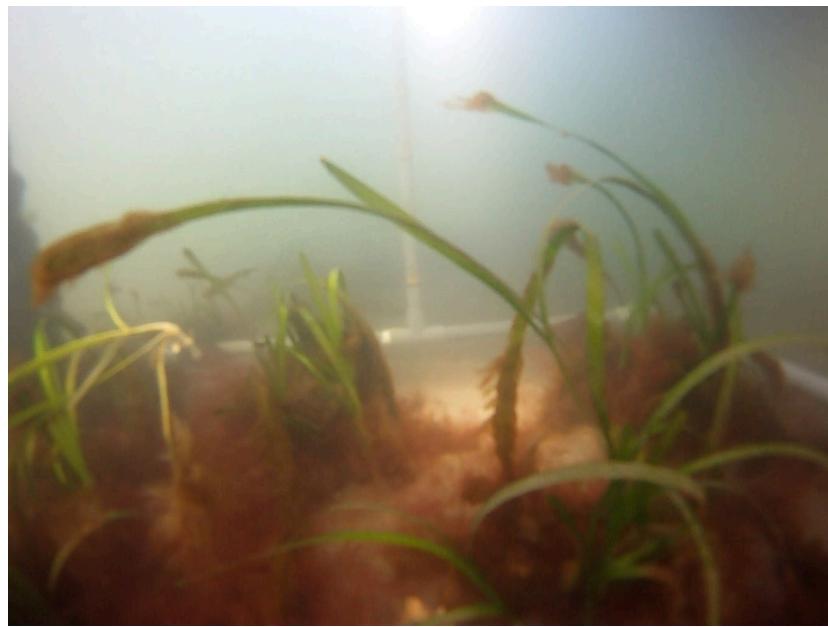
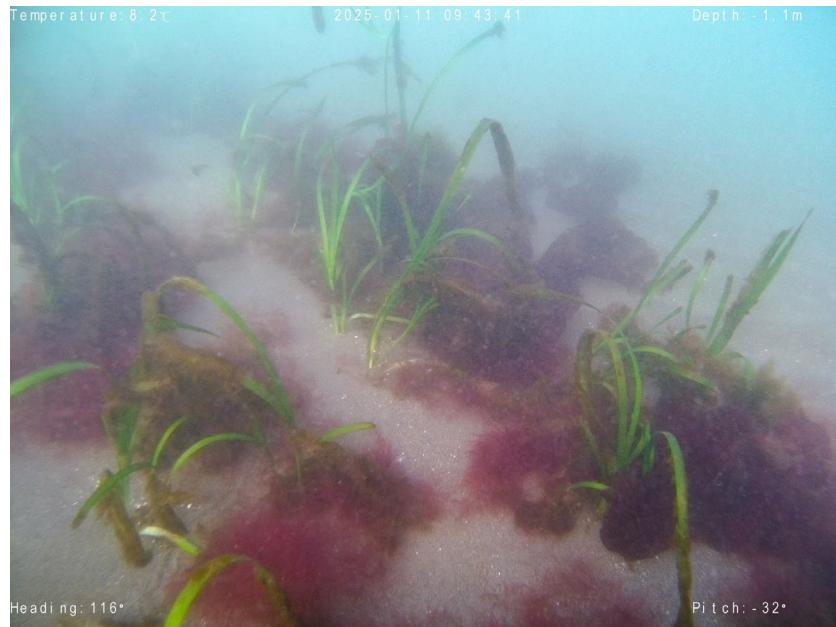


撮影：三番瀬フォーラム

モニタリング3回目（令和7年1月11日）

令和7年最初の調査を実施しました。アマモは、根本付近にウシケシリと思われる藻類が多く付着していましたが、前回の調査から葉の数が大幅に増加し、草丈伸長も見られました。稚魚などの生物の定着はまだ見られません。

また、冬の晴天時は、三番瀬の海からも富士山がきれいに見えます。



撮影：三番瀬フォーラム

モニタリング4回目（令和7年2月15日）

順調に生長が続いています。地下茎から株が分かれ、草数が多くまりました。平均で40センチメートルまで伸び、50センチメートルを超える個体も見られました。



撮影：三番瀬フォーラム

モニタリング5回目（令和7年3月15日）

今回は直前の天候などの影響で透明度が悪く、海中の観察を行うのが難しかったです。まだアマモ場に生き物の様子を観察することはできませんでしたが、アマモはしっかり生長し続けていて、草丈が平均して70～80センチメートルほどにまで育ちました。

次回の調査では、最干潮時に移植地点まで行き、直接生き物の定着具合を調査する予定です。



撮影：三番瀬フォーラム

モニタリング6回目（令和7年4月29日）

移植して半年が経ちました。今回は干潮の時間帯にアマモ場に近づいて調査しました。

草丈は平均で約100センチメートル、最長で135センチメートルのものもあり、株の密度は移植時から10倍程度に増えていました。また、花枝を付け、種を放出しようとしている様子も確認できました。

さらに、先月までは生物が確認できませんでしたでしたが、今回はスズキ、メバル、ギンポ、ヒメイカなどの稚魚が多数観察できました。さらに、根本には三番瀬でほとんど見られなくなったアサリの稚貝も確認でき、アマモが「海のゆりかご」と呼ばれる理由を実感することができました。

次回の調査でどのようなになっているのか、非常に楽しみです。



*採取した生物は調査後リリース
しています

撮影：三番瀬フォーラム

モニタリング7回目（令和7年6月15日）

5月は調査日が荒天となったため、日程を変更し6月に実施しました。

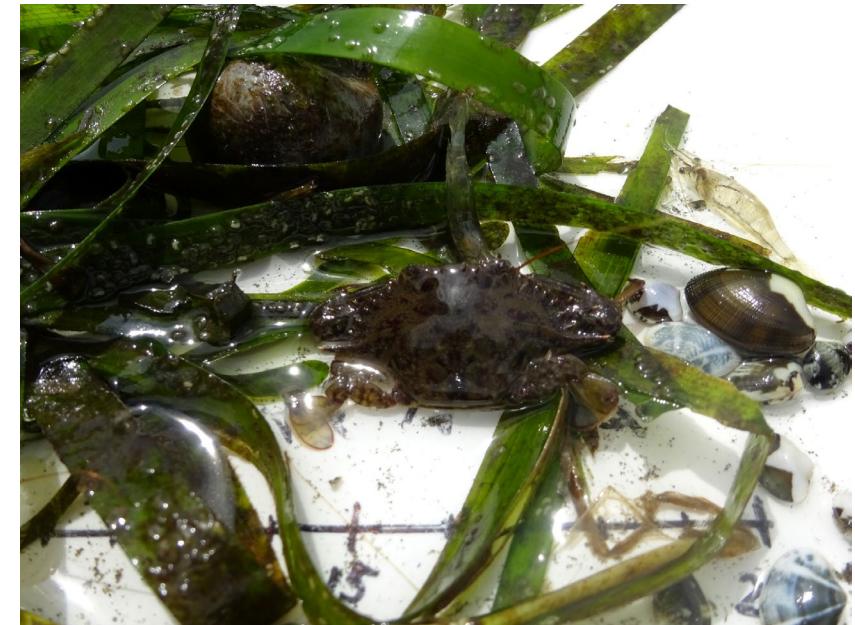
前回観測されたアサリの稚貝などの生き物に加え、コウイカの卵やワタリガニの子どもなどが新たに観察されました。

また、成長したアマモから種子を摂取することが出来ました。

アマモは今後海水温の上昇により枯れてしまう見込みですが、令和7年度も今回摂取した種子を活用するなどして、ブルーカーボンに関する取組を進めていく予定です。



コウイカの卵



ワタリガニ

撮影：三番瀬フォーラム